元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐　勉　　2024年03月18日　第1159号「週刊五十嵐レポート」

選ばれる企業

3月14日付日経新聞、「大手賃上げ、5%超相次ぐ」という記事。

2024年の春季労使交渉は、大手企業が歴史的な高水準の回答を出した。日本企業はバブル崩壊後、失われた30年の間、賃金を抑制し続けてきた。人手不足などを背景に局面が変わり、利益の配分先は従業員に向かう。

実質的な平均賃金で、日本は2022年の額が2000年とほぼ変わらなかった。一方、米国は27%、ドイツ15%上昇した。日本の賃金はOECD加盟国38カ国中、25位。

今年は高い賃上げが実現しても、今後継続していくことが必要。賃上げを継続していくには、商品やサービスの付加価値(粗利益)を高め、生産性を向上(無駄・二度手間やロスをなくしていく)していくことが欠かせない。

付加価値・生産性を高める企業は賃金を上げることができる。そこには優秀な人材が集まる。一方、付加価値・生産性を高められない企業は賃金を上げられない。そこからは人材が流出していく。

東京商工リサーチが3月14日付、「1都3県倒産29%増」を発表。2月の首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)の倒産件数は前年同月比29.8%増の218件。16ヵ月連続の増加。物価高や価格転嫁の遅れ、人手不足などで業況が低迷する企業が目立ってきた。今後の見通してしては、「企業の業績は、価格転嫁や賃上げなどで二極化している。コスト増で収益悪化に陥った企業を中心に息切れ企業が倒産を押し上げる可能性が高まった」。

小さな会社は、顧客から「選ばれる企業」になるために、「強いものづくり」や「独自性・差別化」に努めてきた。それで同業他社よりも1人当りの粗利益、純利益を高めていった。今後は働く人からも「選ばれる企業」にならなければならない。もしくは「働きたい会社」にしていかなければ、生き残れなくなった。人材育成するための社内における従業員教育が重要になってきた。これを仕組化している小さな会社は従業員から支持されている。時間はかかるが、お金では買えない。自社独自性になる。

2024年からは企業間格差が広がっていく。

ちょっと気になる出来事

3月15日付日経新聞、「ブラザー、3度目の変身へ」という記事。

ブラザー工業は業務用プリンター製造のローランドDGが進めるMBOに対抗し買収提案を発表。

ローランドDGは低溶剤インクを使ったプリンターで市場シェアの5割を握る。ブラザー工業はミシンから情報機器、プリンターと事業を多角化してきた。後発のプリンターでは大手と競合しない小型機の開発に力を入れる。ニッチな市場を切り開く戦略は両社とも共通する。産業機械はブラザー工業にとって3度目の変身の切り札となる。

売上規模は、ブラザー工業815,269、ローランドDG 50,459（百万円）、ブラザー工業が16倍大きい。しかし、1人当り純利益は、ブラザー工業870、ローランドDG 3,464（千円）、ローランドDGが4倍利益性が高い。

両社とも自己資本比率は70%を超えており、健全経営。買収総額は640億円を見込んでいる。ブラザー工業の現預金は1300億円相当ある。無理のない買収提案。この先、どうなるかはわかりませんが、面白い記事。

競合が少ない市場、他社が本気をだしていない市場。ここを見つけていきたい。

一口メモ
知識

正しく中(ちゅう)する者

大人（たいじん）を見るに利（よ）ろしとは何の謂（い）いぞや。
子曰く、龍徳（りゅうとく）ありて正しく中（ちゅう）する者なり。

見習うべき大人とは、「龍徳」明らかな志を持ち、「正しく中する者」であるという。「中」は時の的に中（あた）る。すなわち、その時々にぴったりの言行によって、鋭く物事の的を射て、私事の偏りがないという意味。

その時その場面において出処進退を弁（わきま）え、最も適切なことを行うこと。

そんな人の姿勢を見習って、物事の基本姿勢を身につけなくてはいけない。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校　毎週日曜日・水曜日　午前10時～12時
●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校　開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス　〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703　Fax03-3659-7077　info@igarashireport.com